# 心の輪11R

## 『ある日のバッターボックス』という資料を通して，「『公平』とは何か？」について考えました！

『公平』とは，「できないから」といって特別な扱いをせずに，みんなと同じようなことをするということだと思う。「みんなと違うから」「これができないから」という理由で特別扱いするのではなく，「できないなら誰かに補ってもらう」という考えで同じことをすれば，みんな公平になる。

私はこの授業で，みんな平等に一人の人間として接するということが分かりました。障害を持っているからといって違う接し方をしたりするよりも，一人の人間として接するという考え方の方が良いと思いました。

誰かが「嫌だったな。」「あれもしたかったな。」など，不愉快な気持ちにならないように，一人一人が相手のことを考えることが大切。「障害だから」「〇〇はできないから」という差別をなくせばいい。

『公平』とは，みんなが不快な気持ちにならず，相手のことを考えて行動することだと思う。そうすると，みんなが同じように楽しめるし，平等になる。不公平がなく，みんなが平等であるクラスにしていきたい。

『公平』というのは，人それぞれに色々な考え方がある。でも，「できないことはさせない」という考え方じゃなく，「できなくても，その分，工夫して行動する」という考え方の方が，『公平』に対する意識が高いと思った。

周りの人との差があっても，周りの人は差別せずに平等に接したり，差がある人も自分なりに努力したりして，みんなの輪に入る。「一人はみんなのために。みんなはひとりのために」を努力して取り組めば，平等な社会がつくれると思った。

集団で行動したりするときには，誰も不快な気持ちになったりしない『公平』が大切だと思った。自分が公平だと思っていても，相手にとっては公平じゃなく，不快な気持ちをしている場合があるのを知った。

thinking 20

## いっせーの、せーっ

「〇～〇世の中」の〇～〇に、言葉を入れなさいといわれれば、「冷たい」とか「住みにくい」というよくない言葉が浮かんできてしまうかもしれない。でも、世の中のいろいろな断面の中には、見知らぬ人たちがおりなす、けっこう温かい光景があるものだ。

### いっせーの、せーっ

菅　美恵

三年前、仕事で地下鉄を利用したときのことです。初めての駅で、出口の階段を探していると「お願いします」と男性の声。

見ると、車イスの男性、その〝連れ〟らしき男性、駅員さんの三人がいました。

「私も……」と思って、ふと階段を見上げると、「エーッ！」。

出口が見えないくらい長くて急な階段、吹き込む雨、おまけに通勤ラッシュ後で人通りも少なく「どうしよう」と思っていると、どこからか男性五、六人が集まってきました。

皆、余計なことも言わず「さあ、行きましょう」と車イスを持ち上げ、役に立たない私は、皆のかばんと傘を持ってついて行くだけ。皆、雨でスーツがびしょ濡れになりながらも、顔色一つ変えず一気に上って行きました。

車イスの男性の「ありがとうございました」の声で皆散り散りに。そして〝連れ〟だと思っていた男性も……。そう、彼も一通行人だったのです。

たとえ一人でも、力を借りる勇気と、黙って力を貸せる親切心に、私の心は明るく晴れていました。

（河出書房新社刊「小さな親切」運動本部編「涙が出るほどいい話　第四集」による）

『中学生の道徳１　自分を見つめる』（出版：あかつき）より引用